

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和4年度 第2回相模原市発達障害者支援地域協議会		
事務局 (担当課)		陽光園 電話042-756-8410(直通)		
開催日時		令和4年11月24日(木) 15時00分～17時00分		
開催場所		相模原市民会館2階 第2大会議室		
出席者	委員	21人(別紙のとおり)		
	その他	1人(相模原公共職業安定所 高橋麻矢)		
	事務局	13人(陽光園所長、発達障害支援センター所長、他11人)		
公開の可否		可	不可	一部不可
		傍聴者数	1人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由		(この欄は斜線で消す)		
会議次第		<p>1 議題</p> <p>(1) 発達障害支援事業について</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 陽光園療育相談室</p> <p style="margin-left: 40px;">(ア) 令和4年度実績について(令和4年7月末現在)</p> <p style="margin-left: 40px;">(イ) 関係機関への支援について(令和4年7月末現在)</p> <p style="margin-left: 40px;">(ウ) 主催研修等事業について(令和4年11月現在)</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 発達障害支援センター</p> <p style="margin-left: 40px;">(ア) 令和4年度実績について(令和4年7月末現在)</p> <p style="margin-left: 40px;">(イ) 発達障害啓発事業について</p> <p style="margin-left: 40px;">(ウ) インクルーシブ・プログラム開発事業について</p> <p>(2) 各部会における取組状況の報告</p> <p style="margin-left: 20px;">(ア) 乳幼児期部会</p> <p style="margin-left: 20px;">(イ) 学齢期部会</p> <p style="margin-left: 20px;">(ウ) 成人期部会</p> <p>2 その他</p>		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、△は事務局の発言)

1 議題

(1) 発達障害支援事業について

ア 陽光園療育相談室

(ア) 令和4年度実績について(令和4年7月末現在)(資料1)

(イ) 関係機関への支援について(令和4年7月末現在)(資料1)

(ウ) 主催研修等事業について(令和4年11月現在)(資料1)

- ・小児リハビリテーション基礎研修会には20事業所26名が参加。

(千谷委員) 保育園訪問を定期的に行っている。保育園に‘えらべるサポート’について聞いてみたところ、「全然知らない」という声があり、非常にもったいない。「巡回相談だけでは足りないし、保育士が実際に知識を得たりスキルアップを図れたりするのはすごく良い」と、ある保育園の園長先生が話していた。また小児リハビリテーション基礎研修会に当事業所からも参加した。「事業所間のつながりが持てたのもよいが、普段の業務における基礎知識を確認できるのが良い勉強になった」と、参加した職員が話していた。参加人数の報告だけでなく、参加した人にとってどうだったのかを振り返り、次に生かしてもらえるとよい。参加した方の感想などもそのうち教えていただきたい。

(大山副会長) 第1回本会議で、‘えらべるサポート’や巡回訪問について紹介があり、すぐに保育園へアナウンスした。「非常に心強い事業を行っている」という感想を保育園からもらった。より多くの保育園などに事業の周知をお願いしたい。

(日戸会長) 一つは「とても良い事業を行っているのになかなか知られていない」という周知の課題について。もう一つは、研修事業実施後の振り返りをどうしているのかについて。事務局の考えは？

(事務局) ‘えらべるサポート’の周知は、保育課主催の園長会を通じて行っているところ。研修事業実施後の振り返りは、インターネット回答フォーム(logoフォーム)を利用してアンケート集計している。アンケート結果をもとに来年度の研修会の内容を検討していく。

(日戸会長) 今年度特に力を入れた研修などは、集計結果などをまとめて協議会の場で報告をもらえるとよい。また、周知についてはパンフレットなどを作

成することもよいのではないが、ぜひ検討していただきたい。

イ 発達障害支援センター

(ア) 令和4年度実績について(令和4年7月末現在)(資料2)

(イ) 発達障害啓発事業について(資料2)

(ウ) インクルーシブ・プログラム開発事業について(資料2)

○(日戸会長)

- ・連続 Web セミナーについて。今年で4年目。近年、発達障害者支援において、「当事者の声を聴いて、当事者の求めることをしよう」「今までの支援は間違いではないが、中には当事者が求めているものとずれているかもしれない。もう一度当事者の声を聞いて考えてみよう」という流れになっている。連続 Web セミナーについても、当事者視点に立った支援を語れる方を講師としてお招きしている。第1回は千葉大学の大島郁葉氏を講師に招き、スティグマ(当たり前と思いこんでいることに支援者や家族、当事者本人も囚われてしまっていること)に関する最先端の話題について。第2回は、思春期支援の第一線に立つベテランの支援者、川崎市発達相談支援センターの近藤幸男氏を講師に招き、当事者本人の話聞いて支援していくことについて、これまでの経験も踏まえてお話しいただく。保護者はもちろん、学校の先生や保育士にもぜひ聞いていただきたい内容になっている。
- ・インクルーシブ・プログラム開発事業の成果報告会について。この事業では、当事者が自分で考えて発信することをとても大切に活動している。カメラを持って取材しているのは知的障害のある当事者で、特別支援学校を卒業後に障害者就労。仕事の傍ら、この事業に参加している。自分たちの思いを知ってもらうことと、この事業に参加した他の参加者の考えや思いを通して自分たちの成果を知るために取材している。取材した内容は、参加者たちが自ら編集し、ユーチューブに投稿予定。セミナーなどの企画はすべて大学生たちが仕切って運営している。セルフアドボカシーの取り組みとして、当事者がその場を作り発信していくのは相模原特有の取り組みと言える。報告会当日は、事業参加者たちが報告するので、ぜひ見てほしい。

(長沢委員) 強度行動障害の支援者養成研修を松ヶ丘園で実施した。その中でより良い支援のために機関コンサルテーションを行っている機関として発達障害支援センターと陽光園を紹介した。研修受講者はコンサルテーションを使うことのハードルが高いと感じているようだが、相談があった時にはぜひ相談に乗っていただきたい。また、機関コンサルテーションは今年度3件ということだが、内訳を教えてください。

(事務局) おんぷの会(相模原市自閉症児・者親の会主催の当事者及び保護者の懇談会)へ出席し、助言を行っている。

(長沢委員) 強度行動障害等、研修を受けただけでは学んだことを現場ですぐに生かすことは難しいと思っている。コンサルテーションの依頼があれば、ぜひ利用を勧めてほしい。

○(日戸会長) 人材育成のステップとしては、困った事例について相談することも大事なこととされている。

(西村委員) 強度行動障害の支援者養成研修に講師として参加した。たくさんの受講生がいたが、現場につないでいくことの難しさを感じている。発達障害支援センターの相談件数について、令和2年度以降非常に少なくなっていることが気になる。コロナ以外の要因が分かれば教えてほしい。

(事務局) 令和元年に小学生、令和2年度に中学生の相談窓口を子育て支援センターに移行したことによる。

(西村委員) 強度行動障害の研修受講者は成人期の支援機関が圧倒的に多かったので、機関コンサルテーション件数との差が気がかり。当該研修では、横浜での事例報告を受けたので、相模原でも同様に出来るとよいと思っている。

(日戸会長) 研修で基本は理解したけれど、現場に基づいたアセスメントに対するニーズがあるということがわかった。間接支援を手厚くしてほしいというリクエストなので、ぜひ検討いただきたい。

(赤石澤委員) 新規相談件数は延べ件数ということだが、同じ相談者でも相談内容が違ふとそれぞれ1件としてカウントしているということではよいのか?

(事務局) それぞれの相談を1件としてカウントしている。

(赤石澤委員) 実人数も知りたい。相模原市では精神障害の普及啓発を行っていて、当事者にも実行委員会に参加いただいていたたりするが、発達障害の普及啓発においても当事者に参加いただくこともよいのではないのか。

(事務局) 検討していきたい。

(2) 各部会における取り組み状況の報告

(ア) 乳幼児期部会(資料4)

○(千谷委員) 部会に参加した立場として補足。6歳時に就学移行支援事業を利用した児が504人。出生数における割合としてはおよそ1割。就学移行支援事業とは、通常級の中でどのような支援を受けたいかを学校と事前に‘Map(のつなぐページ)’を(保護者が)作成して情報共有していく事業。在籍級を検討する就学相談とは別。就学移行支援事業を利用して通常級に進学する子たちの多くは、それまでに療育等の支援を受けていない子たちで、(子育て支援センター)母子保健班から、その支援ニーズはずっと

上がっている。今支援している人以上に支援を要する人がいるということ。ただ、相談機関がすべてを受け止めるのは無理がある。この対象をどのようにして支援すると保育園や学校生活を安心して送れるだろうか、できることを考えていくことが課題。困難さが明らかなき子への支援ではなく、見えにくい子の支援が求められている。

(日戸会長) 医療と就労の分野、それぞれからの意見を頂戴したい。

(神谷委員) 難しい問題と思う。就学移行支援を10人に1人のお子さんが利用し、そのうちのおよそ2パーセントが療育を受けているということだが、残りの8パーセントの実態がつかみにくい。考えられる1つはそれだけ啓発が進んできたということ、もう一つは日常的に相談を受ける機能を従来の医療や療育では対応しきれていないこと。あまり特性はないけれど、養育環境により難しさを抱えた子も10パーセントに含まれているのではないかと。幅広く相談にのるという点では、専門特化された形ではなく、別なニーズも受けざるを得ない状況があるのでは。一方、1年に1回の診察で安定している層もいる。親がコミュニティからの支援を受けられていないという課題もうかがえる。困っていることを相談できる場・コミュニティとして社会全体が考えないと支えるのが難しいと思う。

(大山副会長) 5歳児検診のシステムがないことと、集団生活の場での困難さを保護者に伝えることの難しさがある。グレーゾーンにある子の保護者がそうだと思う。学校に上がってから困難さが明らかになっている。支援の方法として、ペアトレがあるが行政として実施できるのか。10年前と比較すると、だいぶ支援体制が整ってきているが、さらにより良いものにするためにこの協議会を使っていきたい。

(芳賀委員) 1割と聞いて「そうだよな」と感じる。特別支援学校だけではなく、通常級を経てハローワークに来て手帳のない子もいる。いつかは社会に出るということに不安を感じている家庭に届けばよいと思って、来年2月にセミナーを実施する。社会で生き生きと働けるように、セミナーに参加してもらえたらと思う。

(イ) 学齢期部会 (資料5)

(斎藤委員) 部会員としてグループワークに参加した。この図の使い方がそれぞれ違うことに気付いた事が収穫だと思った。落とし込んでいくのはこれから。久しぶりに対面での会議にほっとした。

(赤石澤委員) 成人期部会でも作成している。この図を作ろうとなった経緯は、それぞれの支援機関の流れを図式化して示そうとしたことによる。成人期部会においては支援機関の役割や支援の流れに対する認識にばらつ

きがなかった。学齢期部会の報告で立場によって捉えが違ったという報告を聞き、グループに分かれて考えると違いが出てくることが面白かった。部会員以外、他から見て流れがわかりやすいものとは何かを考えさせられた。学齢期から成人期に移行するにあたって、相談が途切れてしまうことが課題として出てきているが、それぞれかかる部分を考えてもいいと思う。

(日戸会長)学齢期から成人期につなぐつなぎ目に当たる部分をそれぞれの部会で考えることが大事だと思う。つなぎに関する情報交換を部会間で出来るとよいのでは。本田先生はずっとつなぎが重要であること、引継ぎとフィードバックが重要だと話している。ぜひ続けてもらいたい。

(ウ)成人期部会(資料6)

(守屋委員)乳幼児期部会でも地域診断したいと思っている。参考になった。成人期支援の中で、ひきこもりがあると思う。社会参加の中でインターフェイス機能があるのか等、支援に関する議論があれば教えてほしい。

(赤石澤委員)議論として深まっていはいないが、1型の地活やサポステもその役割は持っている。ただ、つなぎ役はあるけれど、つなぐ先とどのようにつなげていくかの難しさは話題として出ている。

(穴倉委員)精神保健福祉センターではひきこもり支援ステーションの運営も行っており、ご本人やご家族等の支援や啓発などを行っている。多面的な支援を必要とする方が多く、関係機関が連携して対応できる体制が大切だが、連携の網の目は、多面的な評価や、本人が必要とする支援に自ら安心してつながる助けになることが重要である。逆に、偏った評価や、本人を追いつめられたような気持ちにさせてしまう一方的な一枚岩な介入にならないよう注意が必要と思われる。

(日戸会長)それぞれに合う引き出しを見つけるお手伝いも重要なこと。

(神谷委員)レベル3としての医療機関への期待について。現状は期待に応えきれていないな、と思う。他の機関名もレベル3に書けるように、複数がつながっていくのが大事。医療機関側も地域に返していくという視点をもって、レベル1や2の地域で生活できるような状況にしていきたい。地域の医療機関との連携も考えていかなければならないと医師間では話題にはしている。医療は福祉と異なって切れ目なく関われる良さがあり、福祉が切れるタイミングをカバーして支えているケースがある。ただ、児童から思春期に移るところでは、児童精神科医の育成は課題となっている。成人・児童とも精神科の医師として診る、ということを進めていきたい。そのうえでお願いしたいこととして、医師は医療に関することはわか

るけれど、教育など児童に関することを分かっていないところもあるので、現場の様子をぜひ教えてほしい。現場の困り感をあげてもらって、医師も学んで成長していける面もあるので、伝えてほしい。

(日戸会長) システム作りは、自分の専門のところをお互いに少しずつ超えながら共有していけるとよい。

(柳場委員) いろいろな話を聞いた。今年になり、コロナの中でも対面で会議や講演会ができるようになった。橋本地区の民生委員からの依頼で、親の立場から「知っておいてほしいこと」というテーマで講演を依頼された。得意なことや苦手なことの話をしながら、小さい頃の養育が大事との思いを話した。「大変だけど、不幸じゃない」と。講演会の感想に、講師に参加者に寄り添った話をしてもらえた、というものがあつた。これからも親子の会話を大事にしていきたい。

(島森委員) 前回の議事録で、神谷先生から学校での対応について意見をいただいていたのを読み、とてもためになった。親の立場からいうと、インターフェイスのつなぎ役は、必要な時期になって始めるのではなく、前々から準備をしておくように、その子ができる状態を事前に作っておくことを支援者から言われていた。そこで、こどもが10歳のころに、こどもが巣立つときに必要な余暇活動や生活基盤の作り方など作るようにしてきた。今は、一人でも外出し、余暇も楽しめている。

れんきょうでは、3障害11団体を支援している。親の話や本人の話を聞いていると、何をしたいのかを向かい合って話をするのが大事だと感じる。子どもにどう寄り添っていくかがよくわからないでいるので、何をすればよいのかを示してほしい、というのが親の思い。子どもが小さいころから気づいていた親と、精神障害のように成長過程の中で気づく場合とで親の捉え方にも違いがあり、後者はなかなか向き合い方の切り替えや受け止めが難しいとも聞く。公助が充実して頼れる面と、親同士のつながりが薄くなっていると感じられる面があり、ぜひ親の会にも顔を出してもらえたらと思う。ネットワークづくりの支援も大事。11月25日から3日間、ラクアルオダサガにて自閉症児・者作品展を開催する。ぜひ見に来てほしい。

3 その他

(穴倉委員)

・精神保健福祉センター主催講演会について

11月28日に対面形式での講演会を開催する。若干の空きがあるので、参加希望者は直接精神保健福祉センターまでご連絡いただきたい。当日の参加が難しくても申込者にはオンデマンド配信を予定。配信日以降はいつでも視聴可能。

(赤石澤委員)

・さがみハート展について

精神障害を持った人々を書いた詩に市内中学生等が描いた絵をつけた作品の展示会。相模原駅ビル4階の市民ギャラリーにて今日から4日間開催する。ぜひ見に来ていただきたい。

今後のスケジュールについてのお知らせ

- ・乳幼児期部会 令和5年2月2日
- ・学齢期部会 令和5年1月25日
- ・成人期部会 令和5年1月24日
- ・令和5年度第1回の協議会 令和5年7月頃

どの会議も開催形態や開催場所については、新型コロナウイルス感染症に係る国や市の動向に合わせて、今後連絡予定。

以 上

令和4年度 相模原市発達障害者支援地域協議会委員出欠席名簿

	氏名	所属	備考	出欠席
1	日戸 由刈	相模女子大学	会長	出席
2	大山 宜秀	一般社団法人相模原市医師会	副会長	出席
3	神谷 俊介	北里大学病院		出席
4	柳場 秀雄	相模原市自閉症児・者親の会		出席
5	島森 政子	相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
6	西村 三郎	社会福祉法人風の谷		出席
7	赤石澤 勝	地域活動支援センターカミング		出席
8	斎藤 優子	社会福祉法人すずらんの会ぱれっと		出席
9	千谷 史子	NPO法人ワンダートンネル		出席
10	守屋 久	児童発達支援センター青い鳥		出席
11	長沢 伸孝	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団		出席
12	見目 茂則	神奈川県立相模原養護学校		出席
13	松本 祥勝	学校教育課		出席
14	加藤 政義	青少年相談センター		出席
15	芳賀 美和	相模原公共職業安定所		出席
16	相原 健児	相模原警察署生活安全第一課		欠席
17	小林 誠	高齢・障害者福祉課		欠席
18	穴倉 久里江	精神保健福祉センター		出席
19	石井 望	緑高齢・障害者相談課		出席
20	遠山 芳雄	保育課	代理出席	出席
21	江成 敏郎	こども家庭課		出席
22	並木 重人	南子育て支援センター	代理出席	出席
23	江成 浩史	児童相談所	代理出席	出席